

化学物質、廃棄物及び汚染に関する政府間科学・政策パネル（ISP-CWP）の設立

- 2025年6月20日、ウルグアイ・プンタデルエステで開催された政府間会合において、化学物質、廃棄物及び汚染に関する **新たな政府間科学・政策パネル（ISP-CWP: Intergovernmental Science-policy Panel on Chemicals, Waste and Pollution）** の設立が採択。
- 気候変動分野での **IPCC**（気候変動に関する政府間パネル）や生物多様性分野での **IPBES**（生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学政策プラットフォーム）に続く、**政府間科学・政策パネル**となる。



背景・経緯

- ◆ 2022年開催のUNEA（国連環境総会）5.2において化学物質・廃棄物の適正管理及び汚染防止の分野における独立した **政府間科学・政策パネルの設立** に関する決議を採択。
- ◆ 公開作業部会（OEWG）を設置（政府で構成。国連機関等オブザーバー参加）。5回の会合で科学・政策パネルの具体的内容等について議論。
- ◆ 2025年6月15日～20日にOEWG3.2及び政府間会合がウルグアイにて開催され、パネルの設立提案の最終化・ **パネル設立が採択**。

日本の貢献

- ◆ 松澤裕地球環境審議官が政府間会合の共同議長を務め、パネル設立を採択。
- ◆ 本パネル設立の主唱者の一人である国立環境研究所鈴木規之フェローが継続して日本代表団に同行し、パネル設立提案の最終化に貢献。
- ◆ OEWG3.2では日本が一つの交渉会合の議長を務め、決議案の最終化に貢献。

パネルの主な機能

- ① ホライズンスキニング（課題の特定と対応策の提示）
- ② 現在の課題に関する評価
- ③ 科学的研究のギャップ特定、科学者と政策決定者の間のコミュニケーション等
- ④ 科学的情報を求める途上国との情報共有
- ⑤ キャパシティ・ビルディング

パネルの組織構造（イメージ）

